

2011年 平成23年

シン (かのと) ボウ (う) とし ウンキ
辛 ・ 卯 歳の運氣

『黄帝内經素問』「六元正氣大論篇第七十一」より抜粋

編纂・解説 皇漢醫學林 椿野央師

テイ のたまわ よ ようめい セイ い か
帝 曰 く善し。陽明の政 如何に？

黄帝がおっしゃるに善し。では「陽明」が支配する歳は如何様か？

ギ ハク もうさ ボウ ユウ キ
岐伯 曰 く、卯・酉の紀なり。

岐伯がそれに答えて云うに、「陽明」が支配する歳は十二支の「卯歳」と「酉歳」であります。

ヨウメイ ショウカク ショウイン
○ 陽明 少角 少陰

セイネツ ショウフクおな セイショウ テイ ボウ サイカイ
清熱 勝復同じ。正商に同じ。丁・卯の歳會。

テイ ユウ そ ウン フウ セイ ネット
丁・酉 其の運は風・清・熱

ショウカク ショセイ タイチ ショウキユウ タイショウ ショウウ シュウ
少角 (初正) 太徵 少宮 太商 少羽 (終)

丁・卯の歳：24年前1987年、24年後2035年。丁・酉の歳：54年前1957年、54年後：2064年

○ 陽明 少徵 少陰

寒雨 勝復同じ。正商に同じ。

癸・卯 癸・酉 其の運は熱・寒・雨

少徵 太宮 少商 太羽 (終) 太角 (初)

癸・卯の歳：1963年(48年前)。癸・酉の歳：1993年(17年前)

○ 陽明 少宮 少陰

風涼 勝復同じ。

己・卯 己・酉 其の運は雨・風・涼

少宮 太商・少羽 (終) 少角 (初) 太徵

己・卯の歳：1999年(12年前)。己・酉の歳：1969年(42年前)

○ 陽明 少商 少陰

熱寒 勝復同じ。正商に同じ。

乙・卯の天符 乙・酉の歳會 太一天符

其の運は涼・熱・寒

少商 太羽 (終) 太角 (初) 少徵 太宮

乙・卯の歳：1975年(36年前)。乙・酉の歳：2005年(6年前)

ヨウメイ ショウウ ショウイン

○ 陽明 少羽 少陰

西暦2011年は十干が「辛」で十二支が「卯」。(過去では60年前の1951年)

辛・酉の歳も同じ運氣(30年前の1981年)

司天が陽明(燥金)・中運は少羽(水)・在泉は少陰(君火)

ウフウ ショウフクおな かのと う ショウキュウ おな
雨風 勝復同じ。(辛・卯) 少宮に同じ。

勝をなすものは雨、復をなすものは風。司天の金の清冷の性質が勝を行えば、風が復を行う。勝の大小に因って復にも大小がある。

この歳は中運が「少羽」(水)で「少」の付く歳は「不及」の歳で気候が遅れがちに来る。もし「太羽」の場合は「太過」で季節が早めにくる。

かのと とり かのと う ショウキュウ おな
辛・酉 辛・卯 (少宮に同じ。)

辛・酉の歳と辛・卯の歳(2011年)がこれにあたり、中運の「少羽」は水運の不及で、土が水を尅し、在泉の少陰(火)は土を生ずるために土運不及「少宮」の歳と似たような気候になる。

そ うん かん う フウ
其の運は寒・雨・風

この歳の運氣の代表的な気候は「寒さ」「雨が多い」「風が強い」
「寒」は中運の「少羽」水、その勝ものは土「雨」、その復をなすものは「風」

ショウウ シュウ ショウカク ショ タイチ ショウキュウ タイショウ
少羽(終) 少角(初) 太徴 少宮 太商

五行： 木 火 土 金 水

五音： 角 徴 宮 商 羽

主運： 初運 二運 三運 四運 終運 (地氣の主運は毎年変わらず)

主運： 少角 太徴 少宮 太商 少羽

節気： 大寒～春分～芒種～処暑～立冬

客運： 少羽 少角 太徴 少宮 太商 (天氣の客運はその歳毎に変化する)

この主運と客運の組み合わせにより、その歳の運氣が定まる。

およ こ ヨウメイ シテン セイ キカウシコウ テン おく
凡そ此の陽明の司天の政 氣化運行 天に後
る。

およそこの陽明司天は不及の歳で、お天道さんの運行よりも季節の変化が15日ほど遅れがちになる。

テンキ キュウ チ キ あきら
天気は急に、地氣は明けし。

司天の陽明燥金の性質は急迫で、在泉の少陰君火の徳は明らかにして鮮やかである。

ヨウ その レイ もっぱ エンショ おお
陽 其の令を専らにすれば、炎暑 大いに

おこな
行われ、

卯と酉の歳は司天の陽明燥金が不及であるため、在泉の少陰君火の火がそれに乗じて旺盛になり、大いに暑さがやって来る。

ものかわ もっ かた ジュンプウ すなわちおさ
物乾きて以て堅し。淳風 迺 治まる。

司天の陽明燥金の働きで物が乾燥して堅くしまる。金気が不及であるため、風木の気が剋されることなくおだやかな風がふく。

フウソウ ウン よこ キコウ なが
風燥 運に横たわりて氣交に流る。

風木と燥金が争って中運である少羽（水）に横たわるために、天地の間の気の昇降である気の交流が阻害される。

ヨウおお インすく くも ウ フ かけ シツカ
陽多く、陰少なく、雲 雨府に趨り、濕化

すなわち し かわ きわ うる
迺 敷き、燥き極まりて澤おう。

金の陰気が不及して、火の陽気が勝つため、火が盛んになり、火は土を生じ、土（湿）を助けて氣交の間（天地交流の間）に湿気が甚だしくなり、雲が北方の雨府に走り、湿気が多くなる。

そして土が盛んになると、土は金を生じ乾燥するがそれが極まるとまた湿気が多くなる。

そ コク ハク タン カンコク タイ メイ
其の穀は白・丹 間穀は太なるものに命ず。

その司る歳穀はその司天、在泉に属する穀物で、司天である陽明の金気である白い穀物と在泉の少陰の火気である丹（赤）色の穀物。

間穀とは左右四間に属する色の穀物で、司天か在泉の太過の方の左右を指す。

この歳は中運が少羽なので不及。中運が不及であれば、司天の陽明もまた不及であり、在泉少陰は必ず太過になる。（太なるもの）

この在泉の少陰の左右の間は太陰と厥陰で、太陰の黄色と厥陰の蒼（青）色の穀物が司る。

この歳は白とか赤色の穀物、また黄色、青色の穀物を食べると良い。そしてこのような穀物が多く採れるはずである。

辛

卯

陽明

白

（不及）

少羽

（不及）

↪ 少陽 → 太陰 → 少陰 → 厥陰 → 太陽 → 陽明 ↩

（太過）

黄 丹 蒼

コウ ハク コウ ヒンウ
其の耗は白・甲、品羽。

この歳に消耗する虫は、白色の甲介類で金に属する虫。羽根の生えた虫は繁殖するが徐々に少なくなる。

キン カ トク ガツ かみ タイハク ケイワク オウ
金・火 徳を合して、上 太白・熒惑に應ず。

司天の金の徳と在泉の火の徳が合わさって、天体では「太白星」（金星）と「熒惑星」（火星）に応じ、その影響を受ける。

セイ セツ レイ ボウ
其の政は切。其の令は暴。

司天の陽明（金）の働きは切迫する性質で、在泉の少陰（火）の性質はにわかには暴れる。（暴風とか暴雨など、また寒暖の差が激しい）

チツチュウ すなわち あら リュウスイ こお
蟄 蟲 迺 見われ、流水 氷らず。

後半の半年は在泉の少陰君火が司るために、地中の温度も上がり、冬眠していた虫類は「啓蟄」の季節より早く出て来て、流水もできにくい。

たみ やまい ガイ のどふさが カンネツ ホツボウ シンリツ
民の病：欬し、噎塞り、寒熱、発暴、振慄、

リュウヒ
癰悶す。

民衆のかかりやすい病気は：燥・熱が噎に塞がりこもるために欬が出る。急に発熱したり寒気がし、がたがた震えが来て、大小便が出にくくなる。

セイ さき つよ モウチュウ シ
清 先んじて勁く、毛 蟲 迺 ち死す。

ネツ おく しいた カイチュウ オウ
熱 後れて暴げ、介 蟲 迺 ち殍す。

司天の陽明金の清冷の気の影響で、木に属する毛虫類が死滅する。また、在泉の少陰君火の火熱の影響は遅れがちだが、甲殻類の昆虫も早く死ぬ。

ハツ にわか
其の發すること暴に、

ショウフク おこ みだ おおい みだ
勝復の作り優れて大に亂る。

セイネツ キ キコウ ジ
清熱の氣 氣交に持す。

その少陰の火氣は突然暴れる。陽明燥金が不及で火氣が高ぶり、水氣が起こり復をなす。このときは天地の間の陰陽昇降の氣が乱れて、清冷と火熱の氣が天地の間に停滞する。

シヨ キ チ キ うつ イン はじ こ
○ 初の氣は：地氣 遷り、陰 始めて凝り、

キ きび みず カンウ
氣 始めて肅しく、水 迺ち氷り、寒雨

カ
化す。

初の氣：「大寒」2011年1月20日（旧12月17日）～「春分」3月21日（旧2月17日）

客氣は太陰、主氣は厥陰

昨年寅・申の在泉は厥陰が次に遷り、司天の陽明燥金と客氣の太陰湿土が合し厳しい寒さになり水が凍り、冷たい雨が降る。

やまい なかネツ は メンモクフシュ よ
その病：中熱して張り面目浮腫し、善く

ねむ キュウジク テイケン オウ ショウベンギ
眠り、飢飢 噎欠し、嘔し、小便黄ばみ

あか はなはだ すなわ リン
赤く、甚しきときは則ち淋す。

起こりやすい病気は：陰湿が体表を塞ぐために陽気が内側に鬱滞して腫れ、顔面が浮腫み、湿熱が停滞するためよく眠り、足の陽明胃經に湿熱がこもるために鼻血やクシャミがよく出て、腎水が病むためにアクビが出て、吐き気し、湿熱のために腎や膀胱が病を受け、小便が黄や赤くなり、酷くなると小便が淋歴し出洩る。

ニ き ヨウ すなわち し たみ すなわち
○ 二の氣は：陽 迺 布き、民 迺

の もの すなわちセイエイ レイ おお いた
舒び、物 迺 生榮す。厲 大いに至り

たみ よ にわか し
て、民 善く暴に死す。

二の氣は：「春分」3月21日～「小満」5月21日（旧4月19日）
客氣は少陽。主氣は少陰。

客氣の少陽・相火と主氣の少陰・君火で主・客ともに火熱で温かくなり、人々も伸びやかになり、万物も成長する。

相火と君火が合わさり、その熱のために疫病が発生し、人々は突然死に至ることあり。

サン き テン セイ しき リョウ すなわちおこな
○ 三の氣は：天の政 布て、涼 迺 行わ
る。

ソウネツ こも ガツ ソウ きわ うる
燥熱 交ごも合す。燥 極まりて澤おう。

たみ やまい カンネツ
民の病：寒熱す。

三の氣は：「小満」5月21日～「大暑」7月23日（旧6月23日）

客気は陽明・燥金。主気は少陽・燥火。

客気の燥金の涼気が至り涼しくなる。

司天・客気の陽明・燥気の涼と主気の火熱が交互に来て、次の四の気に移ろうとするときに乾燥が極まって雨が降る。

人々の犯されやすい病は：司天・陽明・燥金の清涼と主気の少陽・相火の熱が合わさって、寒気と発熱が交互に来る。

シ キ カンウ フ

○ 四の気は：寒雨 降る。

やまい ボウフ シンリツ センモウ ショウキ のどかわ
病：暴仆して振慄し、譫妄、少氣、噎乾

イン ひ およ シンツウ ヨウシュ ソウヨウ
きて飲を引き、及び心痛、癰腫、瘡瘍、

ギャクカン シツ コツイ ケツベン な
瘧寒の疾、骨痠、血便を為す。

四の気は：「大暑」7月23日～「秋分」9月23日（旧8月26日）

客気は太陽・寒水。主気は太陰・湿土

主・客の湿・寒が合わさり、冷たい雨が降る。

罹りやすい病気は：この歳の後半は在泉の少陽・君火も兼ねて司るために君火の性質は急で、突然倒れたり、客気の太陽・寒水の影響で震えが来て、在泉の君火の熱のためにもうろうとなり、寒気のために呼吸が浅くなり、噎が乾いて水を呑みたがり、そして君火の加熱のために胸が痛み、腫れ物ができ、皮膚が爛れる。

客気の太陽・寒水により発作的に寒気がきたり、寒水の影響が腎を破って骨が萎え、膀胱が病み大小便に出血する。

ゴ キ シュンレイ かえ おこな

○ 五の気は：春令 反って行われ、

くさすなわちセイエイ たみ カ
草迺生榮し、民和す。

五の気は：「秋分」9月23日～「小雪」11月23日（旧10月28日）

客気は厥陰・風木。主気は陽明・燥金。

秋の万物が枯れるときに、客気の厥陰・風木の影響で春が来たかのように草木が生長する。

民衆も調和する。

○ シュウ キ ヨウキ シ コウ かえ あたたか
終の気は：陽気 布きて、候 反って 温

チツチュウ き あら リュウスイ こお
に、蟄 蟲 来たり見われ、流水 氷ら
ず。

たみ すなわちコウヘイ
民 迺 康平。

やまい ウン
その病は：温

終の気は：「小雪」11月23日～「大寒」1月20日

客気は在泉の少陰・君火。主気は太陽寒水

在泉の少陰・君火の温熱の影響で陽気が高ぶり、本来なら寒いはずなのに反って温かになり、地中に隠れていた虫も出てきて、流氷も氷らない。

人々は温暖な気候のために過ごしやすい。

罹りやすい病気としては温病。

○ ゆえ サイコク くら もつ そ キ やす
故に歳穀を食いて、以て其の気を安じ

カンコク く そ ジャ さ
間穀を食らいて其の邪を去る。

その故にこの歳の養生法としては、司天・在泉に属す白や丹（赤）の「歳穀」を食べて正気を養い、また黄や蒼（緑色）の「間穀」を食べて邪気を祓い、この歳の気候の変動に因る邪気を寄せ付けないようにする。

とし よろ カン もっ ク シン
歳に宜しく鹹を以てし、苦を以てし、辛を
以てし、之を汗し、之を清し、之を散ず
べし。

水の性質の鹹味をもって在泉の火を寫し、火の苦味をもって司天の金を寫す。

司天の陽明・燥金の収斂の気を発汗し、在泉の少陰・君火の火を清くし、この歳の邪気を発散する。

そ ウンキ やす ジャ う し な
其の運氣を安んじ、邪を受け使むこと無
く、

中運の少羽・水（腎氣？）を養い邪気を受けないようにする。

そ ウツキ さき カゲン たす
其の鬱気を折て、其の化源を資く。

この歳は陽明・燥金が不及して在泉の少陰・君火の火が金を抑圧し気が鬱滞しやすいので、火気を抑えて金気を助けるようにする。

カンネツ ケイジュウ もっ セイ タショウ
寒熱の輕重を以て其の制を多少す。

司天と在泉の寒熱の多少によって制し抑えることを加減する。
例えば寒が多いときには、これを温めることを多くする。

ネツ おな もの テン カ おお セイ おな
熱に同じき者は天の化を多くし、清に同

もの ち カ おお
じき者は地の化を多くす。

これは木運・火運の在泉と熱を同じくするものは、司天の化の寒・涼

の薬剤を多くする。

また土・金・水の三運の司天と清を同じくするものは、在泉の温・熱の薬剤を多く用いる。

リョウ もち リョウ とお ネット
涼を用いて涼を遠ざけ、熱を用いて熱
を遠ざけ、寒を用いて寒を遠ざけ、温を
用いて温を遠ざく。

涼しいときには涼剤（薬）を使うのを避け、暑いときには熱剤を使わず、寒いときには寒剤を使わず、温かいときには温剤を使わないようにする。

ショクギ ホウ
食宜 法を同じくす。

食事や生活環境に付いても同じ法則を用いる。

かり
假ある者は之に反す。此れ其の道なり。

假あるものとは、例えば夏は暑いはずが寒かったり、冬であるのに異常に暖かな気候のときは臨機応変に対処する。これがその道理である。

これ ハン テンチ つね みだ インヨウ
是に反する者は天地の經を亂し、陰陽の

キ みだ
紀を擾す。

このように天地自然の理に反して治療を施したり、生活をしていると身体のリズムも乱れてくる。

テイ のたまわ よ
帝 曰く、善し。

黄帝は善く理解できたと申される。

参考・引用文献：「和訓黄帝内經素問」小寺敏子編著 東洋医学研究会刊
「黄帝内經素問諺解」岡本一抱子監修
「類經」「類經函翼」「類經附翼」張介賓編著
「運氣論奥諺解」劉温舒選 岡本一抱子選
「黄帝内經素問表解」DIGITAL SOMON 椿野央師編著
2010/12/11 初版